



大阪中央ブロック 中央南支部
(株)インゲネット 岡本 康裕

大阪の商売人なら誰もが知っていて、年に一度は訪れるであろう今宮戎神社。

来年、1月9日から始まる十日戎を迎えるにあたり、ご存知の方もたくさんいるかと思いますが、より深い商売繁盛の祈願ができるよう戎様について綴りたいと思います。稚拙な文章ですが、お付き合いいただければ幸いです。

普段の今宮戎神社

この記事を書くことをきっかけに、恥ずかしながら私自身、十日戎以外の日では初めて参拝をしました。今宮戎神社に到着し、まるでまったく違う場所のような狭さに驚きました。3日間の祭礼に100万人もの人々を集める神社とは到底思えない程、失礼ながらごちんまりとひっそり佇んでいました。



ひっそりと佇む今宮戎神社

十日戎のはじまり

戎様は左脇に鯛、右手に竿を持っておられ、そのお姿からもうかがえるように元々は漁業の守り神であり、海からの幸せをもたらす神とされていました。

当初の鎮座地も、海岸沿いの難波津※（なにわのつ）の付近にあったそうです。

海の産物が集まる場所にはそれにもない物々交換が行われる「市」が開かれ、その中でも四天王寺で開かれていた「浜の市」の神として祀られ、そのことより、商売繁盛の神様としての信仰が広まったそうです。

戎様への信仰は、豊臣時代のころから一層厚くなり、江戸時代には、商人の町大坂の繁栄と共に、商業の神としてますますあつく崇拝されるようになりました。そのころには十日戎の行事も盛んになり、今日のにぎわいを見せる大きな祭礼にまで発展をしました。

ちなみに、戎様への信仰は全国的にもありますが、関東では十日戎の行事は見かけられないそうです。※今の大阪港

『木津の大国さん』こと大黒様との関係

今宮戎から目と鼻の先にある大国主神社。十日戎の参拝に欠かせないのが、大漁追福の漁業の神である戎様に対し、五穀豊穡の農業の神様であることから、同じように商売繁盛の神として信仰されている大黒様への参拝です。

おかざりにもお二人並んで飾られており、例年、十日戎と同じ1月9日から11日にここ大国主神社でも大国まつりが行われており「えびす・だいきく両社詣って本まいり」という触れ込みでにぎわいをみせております。



大国主神社

おわりに

同じ町内で戎様と大黒様という我々経営者に馴染みの深い七福神の中でも商売の神であるお二人の神様が仲良く鎮座されている浪速区恵美須。

十日戎での「年に一度の神頼み！」だけではなく、月に一度くらいは静かで穏やかな今宮戎神社・大黒主神社に参拝し、自社の報告、経営についてゆっくりと見つめ直す時間を持つことも大切だと思いました。